京都帝國大學經濟學會

# 經濟論叢

第十七卷　第五號

大正十二年十一月一日發行

論叢

鎌倉時代の土地制度……文學博士　三浦周行

租稅の逋脫……法學博士　神戸正雄

水戸藩に於ける各種の貯穀……法學士　本庄榮治郎

海運の獨占より生ずる利益……法學士　小島昌太郎

時論

復興事業と經濟界の現況……法學博士　河田嗣郎

震災の教訓と復興問題……法學博士　山本美越乃

說苑

マルサスの地代論に就て……經濟學士　谷口吉彥

京都市に於ける家賃の統計的研究……經濟學士　岡崎文規

勞働生產力と勞賃……經濟學士　森耕二郎

雜錄

安政震災の復舊策に就て……法學士　本庄榮治郎

震災地と產業組合……經濟學士　大森健作

時論

# 復興事業と經濟界の現況

河田嗣郎

## 一　無謀な理想計畫

帝都復興事業に就いては、その審議と實行とのためにする機關だけは、大層立派なものが造られた。その膳立の大袈裟なる點に於ては、洵に近頃稀に見る所である。然るに今茲に此等の大機關が其働を表はすべき實地の復興事業そのものに就いて見れば、その如何にも困難なるべきが思はるゝばかりで、我國經濟界の現狀と照し合せて之を攷ふれば、眞に心細きものがある。

復興實際の事業となれば、何といつても先立つものは資金だが、その資金を如何にして調達するか。事業の困難は主として此所に存する。種々の技術的計畫に至つては、それぞれ專門的の智識を以てすれば、比較的容易に之を立て得られるであらう。又此際いかに理想的な計畫でも立て得られるであらう。けれどもさてその經費はといふ一段になれば、これは机上では行かぬことで、

わが國民經濟の力に依て、事實的に決定せられる外はない。然るに翻つてわが國民經濟現下の實力に就いて攷ふれば、どこを押しどこを絞つたならば帝都復興に要する經費を搾出するを得るであらうか。經濟現下の狀況は甚しき悲境に在るがために、到底十分理想的なる復興計畫を實行せしめ得べしとも考へられぬ。

傳へらるゝ所によれば十五億圓案とか二十億圓案とか三十億圓案とか五十億圓案とか稱せらるゝものが獨逸のマルク相場ででも示されたかのやうな尨大なる超數字を以て揭げられて居るやうだが、そんなど偉い計畫が果してわが國民經濟の實狀を以て實行され得るものであらうか。少くともそんな計畫が多少たりとも眞面目さを以て唱へられたり又迎へられたりするを得るものであらうか。わが經濟界の現況を以てすれば、本氣の沙汰とは思へぬやうな次第である。

私は折角の帝都復興計畫に對して、水を指さんがために殊更にそんな悲觀說をなすわけではない。私とても帝都が一日も早く復舊されて、然かも舊にも增して立派なものとして生れ出でんことを希ふ點に於ては、決して人後に落つる者でないが、たゞ併し少しく眞劍に問題を攷へ、わが國民經濟內外の實狀に照してその可能性を叩いて見、また計畫實行がわが國民經濟の現在及將來に對して及ぼす影響に就いて思を致せば、所詮前揭の如き尨大なる計畫を以て無謀の理想案と見る外はないのである。これは洵に悲しいことだけれども、事實は如何ともすることが出來ぬ。

然らば果して如何なる事情あるがために、あまりに理想的なる大復興計畫がユートピアに過ぎぬと謂ふか。試に色々な方面から、わが國民經濟の現在及び近き將來の實況を窺つて見やう。

## 二　戰前戰後の經濟界

人も知るが如く、先年の世界大戰の行はれる以前、卽ち大正三年の夏以前に在つては、我國は世界の一等國だなどゝ國民は自惚れて居たに拘らず、一等國としてはまた珍らしい貧乏國であつた。積年の外債に對する元利拂と、比年相亞ぐ輸入超過の決濟とのために、國際金融上に在つては常に巨額の借方勘定を控へて、年々巨額の正貨支拂を餘儀なくされて居た。そして其の遣繰のために更に又屢々外債を募つて之を在外正貨として貯へ置き、その中からぼつ〳〵と國際支拂の義務を果し、そが盡くれば又新に外債を起して同樣のことを繰返す有樣に在つた。その狀恰も債務に塗れたる商人が遣繰算段に無理を重ぬる有樣に似たものであつた。識者は夙に何時かは破綻の來るべきを憂へたのである。

然るに幸なる哉、あの世界戰爭は起つた。それがために生じたるわが輸出貿易の振張は、さながら救世主の如くにわが國民經濟の難局を救ふことゝなつた。そして其狀況は大正四、五、六、七年と進むに連れて段々に良くなり、未曾有の好況期を呈するに至つて、國民擧つて相慶賀する

有樣となつた。けれどもその狀況はあまり長くは續かなかつた。大正七、八年に至つては、早くも既にあまり調子に乘過ぎたる企業熱と度を失つた投機取引とのために、反動の氣運が動き始めて、大正九年の春にはあの恐るべき恐慌的瓦解を見るに至つた。そして此の反動はそがあまりに急激にあまりに深刻だつたために、折角挽回したる經濟界の情勢を傷け、好況時代に贏ち得たるものゝ少からざる部分をばまた失はしめることゝなつた。

爾來今日に至るまで不景氣は中々根強く推進むで來て、中々一陽來復などの望はなく、事業界の蒼痍は愈々深く喰入つて來るばかりだし、金融梗塞の狀況は年と共に甚しく、銀行の如きは金融機關たる働は殆んど爲し得ないで、僅かに貯蓄機關たる働を爲して小さくなつて控へて居るやうな有樣を續けて來た。

それでも戰時好況時代に儲けた金は全く無駄にはならず、國富も多少は增加し、民の懷も多少は裕かになつた。たが前者の大部分はビルヂングとなつて表はれ、後者の大部分は寫眞機械となつて之を象徵するに過ぎないやうなわけだつた。東京の丸の內が西洋町のやうになり、銀座や日本橋通りが大分現代都市らしい俤を示すに至つたも、實にこの好況時代の形見たるを忘れてはならぬ。

## 三　經濟界現在の實況

そこへ今度の大災害はやつて來たのである。だからそのやつて來た時には內外に於ける我が國民經濟の實況は、寧ろ慘憺たるものであつたのだ。試に之を國際貿易上に於ける狀況について見るがよい。

顧るに戰時我國の貿易上に於ける最好況時は、大正六年であつた。同年に於ける輸出貿易の金額十六億三百餘萬圓で輸入金額十億三千五百萬圓、つまり出超五億六千七百萬圓といふ盛況を呈した。それから後は輸出貿易の金額こそ大正九年に至るまで比年增加したが、それは主として物價騰貴による金額の增加たるに止つた。然るに輸入の方は更に一層大いに增加したために、七年には出超二億九千四百萬圓に減じ、八年には早くも入超七千四百餘萬圓を算し、九年十年共に入超三億餘千萬圓に上ぼり、昨年の如きも二億五千二百餘萬圓を唱へ、本年の狀況は三億圓を下らざるべきを思はしむる勢に在つた。

貿易の狀勢かくの如くなるがために、政府及び日銀の正貨保有高に至つても、大正四年以來段々殖へて來て九年末には終に二十一億七千八百萬圓といふレコードを示し、大正三年末の三億四千百餘萬圓に比し六倍以上にも及むで居たのが、十年末には減じて二十億八千萬圓となり、昨年

末は更に減じて十八億三千萬圓となり、本年六月末には十七億九千三百餘萬圓に過ぎざる有樣となり最高レコードに比し三億八千五百萬圓を減じた。

世界大戰以來わが國內好景氣の唯一原因だつた所の輸出貿易の狀態斯くの如くなるが爲めに、經濟界の景況は段々惡くなるばかりであつた。日本銀行兌換券の發行高の如きは、信用梗塞のため割合に減少せなかつたのだが、それでも段々に縮小せられ、昨年は十二億圓臺となり今年になつてからは上半期を通じて十一億圓臺に下つた。從て物價の狀況も亦大正九年の崩落以後十年下半期から昨年上半期にかけてやゝ頽勢を挽回しかけて居たのに、昨年下半期からは再び下落の傾向を迎へて來て居た。ともかく不景氣は段々と經濟界の眞髓に喰入る有樣にあつたのである。

そんな有樣だから國內事業界は全般的に殆んど火の消えたやうな狀態で、一方商品に對する需要は著しく減退したのに、他方金融はとかく圓滑を欠ぎ、諸會社は事業資金にも事を缺ぐやうになつて居た。銀行は貸して呉れず、株主から拂込を取る見込も立たず、たゞ僅かに社債發行に依つて急場を凌がんとする有樣だつた。然かもその社債とても利子八分九分といふ風で、賣出價格に對する利廻に至つては大抵一割からそれ以上といふ高步に當つて居た。それでも尙社債の賣行はとかく面白からず、堂々たる大會社でも物上擔保附かなんかで漸くに賣出し、それすら成績はあまり面白からざる狀況だつたのである。

そして銀行はといへば、好景氣の際にあまり調子に乘過ぎて信用濫授を行つた祟りで、貸付は固定して回收の困難年と共に甚しく、取つた擔保の價格は下がり、大多數は四苦八苦の狀態だつた所へ、石井の破綻や積善銀行問題その他の大小事件が續發したものだから、大阪を中心として昨年下半期特に年末頃の苦しさといつたら、目も當てられぬ程だつた。相當よい顏の銀行已に然り、下流の中小銀行に至つては、眞に靑息吐息の悲哀を痛感しつゝあつたのである。

商工都市に於ける狀況斯くの如くなるに加へて、飜つて地方農村の狀況を見れば、之れ亦殆んど生色なき有樣である。大正七八年の米價高による好況は束の間に過ぎ去り今ははかなき昔語りと化せんとしつゝある。それに一方小作問題の如きは隨所に續發し、生產收益は減ずるのに生活の費用は一時好況期に上向したる生活標準の容易に下げ難きために益々嵩むで來る有樣に在り、それに租稅その他の公課は近年益々增加して、農村疲弊の狀況眞に憂慮すべきものとなつて來た。されば一昨年頃からは地方民力涵養の聲が段々高くなつて來て、敎育費の國庫補給の問題が起り、それが漸次實行されてもまるで燒石に水たるに過ぎず、終に昨年に至つては地租の地方委讓問題が具體化するまでになつてまゐつた。政友會の如きは特に此點に力を注ぎ、地租委讓は黨議として之を決定するまでに立到り、本年に入つてから震災前の狀勢に於ては、この地租委讓問題が政界の暗礁たらんとするまでに切迫して居たことは、普ねく世に知られたる事實である。そ

して地租委讓問題そのものには贊成でも不贊成でも、農村救濟の必要なることに至つては、朝野の齊しく之を認むる所で、たゞ其の實行方法を如何にするかゞ問題たるに過ぎなかつたのである。

## 四　復興の費用とその調達難

すべて斯くの如く、之を都會地について見るも、之を田舍地方に就いて見るも、之を商工業方面に於て窺ふも之を農業の狀況に照し見るも、將又之を資本家企業者の實狀について見るも、中產階級及勞働階級の境地に立つて見るも、天下悉く痿痺痿縮の狀況ならざるはなく、どこを叩いたら活氣ある響のするかの測り知り難かつたのが、震災前のわが國の實狀だつたのである。

此時に當つて突然あの大災害は落ちて來た。そしてその災禍があまりに激烈慘酷なものだつたから、罹災地方は勿論のこと、全國一般に一と度は色を失つて驚き恐れ、忽ちに又火の洗禮に興奮されて、全國擧つて救濟の事業に熱中しまゞ首尾よく其業を爲し得て、今や帝都を中心とす、復興事業なるものが、國民的興奮の中に萌え出て來たのである。そして其の計畫は今の所まだ此の大興奮の中から發表されるのだから、東京市の道路建設だけにでも十億圓かゝる十字案だとか、二十億圓かゝる十字案だとか、三十億圓かゝる米字案だとか稱せらるゝものが、盛に火の手をあげて居る次第である。

けれども此の興奮が少しづゝ醒めて、少しく冷靜に立歸り、上に掲げたやうな我國現下の經濟界の實狀を顧みる餘裕が出て來るやうになつたならば、恐らくは斯かる尨大な計畫の如きは漸次姿を消すであらうと同時に、帝國財政の實狀はたゞ實行し得らるべきモデレートな案をのみ要求することゝなり、然かも相當モデレートなものですら、その實現の容易ならざることゝ、復興事業が隨分多大の年月を要することゝが、明かにさるゝに至るであらう。

試に今國家と東京市横濱市などとが、漠然と尨大なる復興計畫を立てゝ、一方は帝都復興のために、他方は各々經濟都市としての自己復興のために何十億圓といふ資金を此際絞り出さんとするものと假定せよ。それがたとへ繼續事業であらうとも比較的短き年月の間に復興の業を爲し遂げんとする計畫を立てるものと假定せよ。我國の內外に於ける今日の經濟實力と財政の實狀とを以てして、どこからそんな資金は出て來るであらうか。

先づ之を國家事業の方について見れば、こんな莫大な臨時費は固より主としてその資源を公債に仰がねばならぬのだが、今內地に於て近き將來何年かに涉つて何十億といふ資金募集が眞實行はれ得べしと眞面目に考へ得る樂觀論者が何人居るであらう。茲數年來賣出して來た政府の諸公債の賣行ですら、近者とかくその成績の十分ならざるものがあつた。それにあの大震害を被つた後の今日巨額の公債を續發するものとして、誰が之を買ふであらうか。又買ひ得るであらうか。

その幾部分は固より消化されるだらうけれども、豫期の成績の何分の一か位しか民間に賣行き得ざるべきは、豫言者でなくてもわかる。然らば結局日本銀行が大部分之を背負込むとするか、日銀とてアトラス神ではないから無限の負擔力を持つて居るものでないが、とにかく或限度まで無理にも引受さすれば、それと共に兌換劵の膨脹は免れぬ。震災後一ケ月餘にして既に二億七千餘萬圓の增發を見た。（八月二十九日現在發行高十一億七千六百餘萬圓十月三日現在發行高十四億五千七百餘萬圓）今後尙ほ續々表はるゝ需要に從ひ、所謂復興事業以外の關係に於ても、兌換劵の增發は免れ難いのに、右の引受によつて更に大いに膨脹するに至らば、物價の前途はどうなるであらう。今後數年十數年に涉つて此上物價が大いに騰貴したならば、國民中の多數は生活破綻に陷る外はないかも知れぬ。それに又國內物價の騰貴は輸出貿易を益々痿縮せしむるは當然である。然るに現今英米その他の國々は獨逸の如きを除き、何れも物價整理の業に着々成功しつゝある時期たるを忘れてはならぬ。貿易上の競爭國は物價下落の傾向に在る間に我國ばかり益々物價を騰貴せしめたら、輸出貿易の前途寒心すべきものなきを得ざるべきは明かである。

所が假りに公債が國內民間で都合よく賣行いたとしても、又は右の如くにして日銀などに引受させたとしても、さてその利子負擔をどうするか。財政困難、經費節約、何割天引何分天引などゝ騷がれて居た震災前の財政狀況から之を見て、何十億圓かの公債の利子拂に要する經費膨脹を

如何にして處理し得るか。それも國家危急存亡の場合に外敵防禦のためにする戰費ででもあるならば、國民は身の皮を剝いでも之に堪へるであらうが、今回の場合はさうは行かぬ。

次に又公債はその大部分を外債によるものと假定する。その場合にも利子負擔等については右と同樣だが、その外資を國內に持歸らないで、之を外國市場に預けて置き、入用に從て物資實物を購入して之を輸入することゝしたならば、國內物價に對する大いなる影響だけは免れることが出來る。けれどもその代りには、貿易關係に於ては益々輸入超過の勢を助長することゝなるから、之を普通の狀態に放置すれば、爲替相場は甚しき逆調に轉ずるは避け難き所とせなければならぬ。斯くては困るから之を救ふ道として借りた在外資金を以て政府自ら購買代金の支拂を爲すか、さなくば之を段々に爲替銀行に拂下げて貿易上の決濟を爲さしめ、以て爲替相場の維持を圖ることゝなせば、差當り爲替相場などの上に生ずる大きな弊害は之を防ぎ得らるゝであらう。けれどもそれにしてもその借りた金はやがて使ひ果してしまうのだから、そが使ひ盡された上はその利子支拂が國際貸借上に於ける借方勘定を增すことゝなり、やはり其後長く引續いて、國際金融上に於ける我國の地位を壓迫することゝならざるを得ない。それも一方輸出貿易が盛で貿易上出超による貸方勘定が大いに存するのなら心配ないけれども、前に述べたやうな貿易の現狀を以てすれば、又貿易界今後の狀勢を察すれば、近き將來に於てかゝる出超の期待され得べき理由も

なく、依然たる輸入超過を覺悟せなければならぬのだから、その爲めにする決濟とこの利子支拂とは、相合してわが國の國際貸借上の地位を甚しく劣惡ならしむるものと見なければならぬ。斯くてわが國はまた再び世界大戰以前の困難なる境遇に立つことゝなるを免れ難い。所が元來借金なるものは利拂をするばかりでは濟まない、期限が來れば元金の返還をせなければならぬものたるを忘れざるを要する。

## 五　都市復活の困難

すべて上に示すが如き事情は、翻て之て東京市及横濱市などが自己の事業として其の經濟都市としての復興の計畫を立てるに就いても畧ぼ異る所なく、然かも事業の困難は、更に一層多大なるべきを想像するに難くない。

東京市横濱市が都市としての復興を爲すは、固より之れ自治體としての都市が、其の市民の實力を基礎として行ふ外はなく、事柄に依つては多少國家の援助を藉ることの出來るものもあるが大部分は結局市民自身の負擔に待つ外はなく、法規の上からいつても、自治體の負擔すべきものを國家に負擔せしむるが如きことの出來得べき筈のものでもなければ、又自治體としての面目と權威からいつても、無暗に國庫にたよるべき筈のものでもない。

然るに之を市民の實力からいへば、上に國内一般に就いて述べた所は、東京横濱の市民に就いても同樣に謂へる次第で、大震以前の不景氣は東京にも横濱にも浸み渡つて居た。此際莫大なる費用を理想的なる都市建設の爲めに負擔するだけの實力ありとは思はれぬ。そして事業の實行上はやはり公債を發行して資金を募る外はないが、此等の都市の公債が此際及び今後國内に於て十分に賣行くべき見込なきは、國家の公債の賣行き難きにもまして更に一層明確である。さらばとて外債を募るにしても國家の保障でもない限りは到底成立の見込がない。然したとへ外債が成立するにしても此際莫大な借金を爲すことの両市の爲めに如何に危險なるべきかは殆んど言を俟たずして明かである。將來その利子拂だけにでも、両市民の苦痛は如何に大なることであらう。それもその借金が何か生産的の事業の爲めにせられるのなら心配はないが、燒燼したるものゝ恢復と、消費的なる都市計畫との爲めにせられるのだから、よほど市民の經濟に餘裕なき限りは、安神して借金の出來るものでない。

そして次に自治體としての事業以外、各商家や工業家が銘々自己の店舗や工場や仕事場やを復舊することに就いて見れば、之は徹頭徹尾私人的なことで、各自その實力で以て之を行ふ外はない。然るに今速かにその復舊を爲すに差支なきだけの遊むだ金を持つて居る個人や會社が幾らあるだらう。此の不景氣な際に當つて、そんな遊むだ金の多くあるべき筈はない。然らば又他に用

ひつゝある資金の之に流用さるゝを得べきものがどれほどあるだらう、少數なる會社や個人を除いて大多數はやはりその道に於ても多くの餘裕を持ち得ざるべきを信じられる。

然らば此等多數の商工業者は、その事業復舊のためには、此際極力銀行を利用して資金の融通を爲す外はなく、所有物の如きは出來得る限り資金化して之に用ゐる外はないのだが、さてそれが又どれ位十分に目的を達し得るであらうか。先づ土地建物を有する者は、之を擔保に日本勸業銀行や農工銀行の如きから資金の融通を受けるのだが、商人や工業家たる限り個人でも會社でも、從來その所有する土地建物をかくの如くにして資金化しないで居たものがどれ位あるだらうか。詳言すれば、從來その所有する土地建物を擔保にも入れないで浮かして持て居て、此際之を擔保に沈め得るものがどれ位あるだらうか。惟ふに大多數は既に之を利用して居て今更あまり多く之を資金化し得る餘地はないものと思はなくてはならぬ。

そして工業資金の如きは、また之を日本興業銀行の働に依つて調達すべきだが、從來の成績より之を見て、その働がどれ位十分に表はれ得べきかと考ふれば、甚だ心細からざるを得ない。

從來の實狀から之を見れば、日本勸業銀行にしても日本興業銀行にしても將又農工銀行にしても、とかく貸付資金の調達に苦み、債券を發行してもとかく十分なる成績の擧げ難く、從て貸付の業務が十分に需要に應じ得られないで困つて居たのである。特に此の一両年段々資金難を感ぜざ

るを得ざる有樣に在つた。されば今東京横濱等に於ける復興事業のために俄かに借用希望の殺倒するに會しては、此等の銀行は、忽ち貸付資金の缺乏に面喰はざるを得ざる狀態に在る。それは成程債券發行に依つて何程かの資金は吸收し得られるだらう。けれどもあの大震災のために罹災地に於ける擔保物の價格の大下落を見たる今日、此等の諸銀行の世間に於ける信用は震災以前と同一であり得べき理由はない。さすれば震災以前すらとかく募債成績の十二分なるを得なかつた此等の銀行が、今日及び近き將來に於て、債券を發行して飛ぶが如くに賣れ行き、依て以て十分潤澤に資金を吸收し得べしとは考へられぬ。

そこで結局はお定りの通りに此等の銀行は預金部あたりから低利資金でも融通して貰つて此に依つて貸付請求に應じて行く外ないのだが、さてその預金部とて無盡藏の金穴を有するわけではなく、それに又方々から融通の請求を受けて居るのだから、さう多くの資金を此の方面に廻はし得るものではない。

然らば卽ち復興事業の爲めに要する民間の資金も、隨分調達難たるべきを思はなくてはならぬ。少くともその必要とする所に對して實際融通さるゝ所の甚だ少額なるべきを思はなくてはならぬ。

そして普通の商業銀行の如きに至つては、元來が商業經營のためにする短期資金を扱ふを以て

任務とするものなのだから、所謂都市復興事業のためには、餘り多くを其働に對して期待することは出來ぬ。またその短期なる商業資金にしてからが、前に述べたやうな金融界の現狀を以てすれば、どの位十分に潤澤に運轉せらるべきか、甚だ心細き限りである。此頃のやうに銀行が痿縮してしまつて、預金の吸收にばかり沒頭し、手元を潤澤にして不虞の事變に備へる用心ばかりし、極度に貸付を引締つて、前にいつたやうに、一般的に殆んど金融機關としての十分の働は爲し得ないで、僅かに貯蓄機關たるやうなものになつてしまい、たゞ之れ安全第一でやつて居る時期に際しては、罹災地に於ける其の十分なる働は到底望み得られぬ。特に罹災地に在つては、商人や事業家の信用狀態が一朝にして頗る不確實のものになつたのだから、尙更以て普通銀行が此際一肌ぬいで、復興事業の援助をするなどのことは望み難い。多少は固より行はれても、之に多くを期待することの出來難きは、容易に想像し得らるゝ所なりとする。

事情果して斯くの如くんば、東京及横濱市民の自力を以てする各個の事業の恢復も、都市々としてのその復興と相待つて、隨分ともに多艱多難なるべきを思はなくてはならぬ。そしてそは實に現今の時期が頗る惡く、好景氣の後を受けたる反動的大不景氣の時期、經濟沈滯痿痺の時期に於て、此の大禍害の生じたるがためなるを知らなければならぬのである。

## 六　整理による消極策

上の如く觀來つてさて之を攷ふれば、所謂復興の事業は、此際あまり理想的な尨大な計畫を立て、見た所が、到底實行不可能なるべきを信じ得られる。それと同時に又之をわが國民經濟の上より考へ、國家大局の利害より見れば、現今の如き時期に際して無理をして莫大な經費を調達し、生産の事業に用ゐらるべき資金をも取て使ひ、經濟界一般の景氣挽回のために役立つべき力を奪つて、謂はゞ不生産的なる都市計畫の如きに用ゐ、必要以上にたゞ美觀と國家的虚榮とのために、壯大なる官署などの建築のために、民力を枯渴せしむるが如きことは、此際之を斷念することの必要欠ぐべからざるを思ふに足るものがある。

されば帝都復興の事業の如きは、或程度までは是非ともやらねばならぬことだから、事自體は已むを得ざるものとしても、飽迄節約を旨とし、實用を本位として行はれねばならぬものとする。之を經濟界の實狀に照し考ふれば、此際國民一般に對して多大の負擔となるが如き大計畫を立て遮二無二之を實行するが如きは、國家百年の長計を誤り、國民經濟の發達を阻害し、場合によつては民を塗炭に苦ましむるものと謂はねばならぬ。まして帝都の復興事業と東京市及び横濱市の復興事業とを混同し、その殆んど總てを國費を以て支辨するが如きことは、絶對に止められねばならぬ次第である。國民一般は右等の點に關しては權利として之を要求することが出來る。

そして今實用本位に復興の事業を行ひ、先づ破壞されたる通信及び運輸機關の復興を爲し、燒燼したる諸學校を再建し、次には諸官署を建築する等のことを爲す分でも、相當に巨額の資金を要するのだから、其餘のことは經濟の實狀が之を許す限りに於て、徐々に長き年月の間に自然的に恢復するにまかせて然るべきである。

然るに此等の差當つて必要なる事業のために要する經費は、一部分は固より公債に依る外はないであらうが、その公債なるものが、現時の經濟界の實狀を以てすれば、中々容易でないのだから、大體の方針としては、財政上に於ける經費節約に依て之を捻出し、その足らざる所をば公債に仰ぎその公債は成るべく之を內債にすることゝなすが、最も妥當の方針たらざるを得ない。然らばその財政上に於ける經費の節約が果してどれだけ行はれ得べきかは、之を財政の專門家に聽く外はないけれども、然しそれは主としては覺悟の如何に存する。十分なる覺悟を以て望めば、冗官を廢し冗費を節約するだけでも、かなり多大の餘裕の捻出せらるべき望あることは、少しく事情を知る者の容易に信じ得べき所であらう。きけば政府は經費二割五分の節約を爲さんとするさうであるが、その位の程度ならば勿論實行上に超ゆべからざる困難はあるまい。唯併し乍ら、今現に行はれて居る政務を一切此儘にして置いて、一樣平等に二割五分を節減するといふのならば、隨分そこに困難あるべきを思はなくてはならぬ。爲めに重要政務の荒廢に歸する場合もあり得べきを信じ得られる。

されば經費の大節約を行はんためには、現今行はれつゝある諸政務に涉つて、思切つたる整理

を行ひ、必要なるものをのこして比較的必要ならざるものを淘汰し、之に依て冗官と冗員とを削り去ることが急務中の急務である。永年行はれ來りたる政務のことなれば、少しづゝ癤が出來るやうにして段々と増して來た冗官冗員は現今實に尠少でない。殊に大戰中の好景氣時代以來そんな贅物の増加は著明なるものがある。此際政府は宜しく思切つて此等のものゝ淘汰を行ひ、根本的に行政を整理すべきである。その整理さへ徹底的に行はれば、復興の事業に關してユートピアを描かざる限り差當つての復舊費用の恐らく大部分は拈出せらるべしと思はれる。そして右以外尙ほそこには國内の安寧と秩序とを維持するに必要なる程度以上の軍備を縮小する餘地も、綽々として大なるを思はなくてはならぬ。

要するに今回の震災は絶大の規模に於ける消費だつたのだから、之が復舊のためにも先づ以て消費節約を以て之に臨むが順序である。本當である。此の絶大の消費を舊狀に恢復せんがために、莫大の資金を生産の方面より消費的に轉用するに於ては、國民經濟としては二重の損失を被る結果になる。されば此の恐るべき大消費の損害を少くする唯一の工夫は、消費節約に依て拈出したる所を以て必要已むを得ざるだけの程度に於て復舊の事業を遂行することに存する。經濟的の考慮に於ては吾々は飽迄冷靜でなければならぬ。然るに今冷靜に事情を洞察してさて復興の事業を考ふれば、財政の現狀と國民經濟の實力とが之を許す範圍内に於て、所謂國力相應なる謙遜なる計畫を以て唯一賢明なる計畫と見る外はない。ともかく極力排斥すべきはかのユートピア流の尨大なる空計暴策これである。（十月十日）